

☆コラム：我が家での突っ込みあそびから☆

子：「ママ～、3ぶきのこびたのえほん読んで～」

母：「3ぶきのこびと…？」

父：「3ぶきのこびたでしょ」

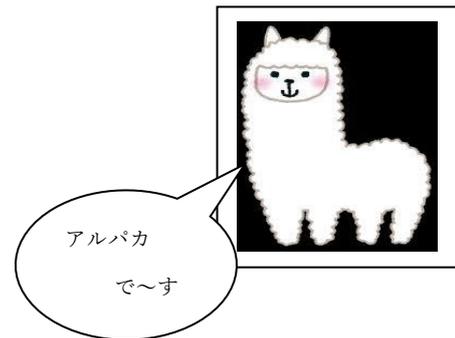
子：「3ぶきのこびただよ～」ん？

子：「パパ～、アカルパってなに？」

父：「アパルカ…？」

母：「アルパパでしょ」

子：「アルカパか～！」ん？



我が家では子どもの「発語」をもとに、どんどん言葉を入れ替える突っ込みあそびをして、お互いに楽しんでいました。幼児期は「赤」と「オレンジ」、「青」と「紫」など、近似の色を識別することが難しいですね。言葉も同様で、幼児は言葉全体の「聞いたイメージ」を表出しようとしています。語列を入れ替える遊びによって、子どもは頭の中でパズルを組み立てるように思考力を伸ばしていきます。

識別といえば、音楽にも同じことが言えます。「ド」と「レ」は、音列の隣に位置するので、子どもたちは聞いた時に音の高さを聴き分けることができません。幼児期・児童期は、「ドレミ」と順次に歌うのではなく、「ド」の次は「ソ」を歌ったり、聴き分けたりする方法をお勧めします。この方法は、日本の幼児教育に普及しているリトミックの音楽教育法に見ることができます。このリトミックの方法を音楽表現の授業に採り入れた保育士養成機関は埼玉県内にも複数あり、保育学生たちの音楽能力が向上しています。

子どもたちにとっては無心に遊べる楽しい時間はとても重要です。ただし、「こうやってみたら成功した」という偶然性の体験に頼る保育は、一過性の効果しか生み出しません。

我々保育者は、彼らの「遊び」の中に、基本のメソッド（教育法）に裏打ちされた専門性を持って関わる必要があります。埼玉県保育士等キャリアアップ研修の「保育実践」は、まさに好機であると考えられます。他分野でも、フレーベル、ルソー、ペスタロッチ等の教育観に触れる機会が設けられています。今後も、保育士として専門の学びを更新していく研修の機会を活用していきましょう。